

授業概要

人の発達について多角的に理解することを目指し、主に胎児期～児童期までの各発達段階の様相や発達の課題について学ぶ。本授業での学びを幼児教育・小学校教育における基礎知識として定着を図るため、現代的トピックを織り交ぜながら講義する。子どもの健全な発達を支える関わりや援助のあり方について考察する。講義形式の授業であるが、授業内で演習課題を出す形式で進めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）／発達とは何か
第 2 回	保育・教育実践に関わる発達心理学の基礎理論
第 3 回	発達のメカニズム：遺伝と環境
第 4 回	脳の発達／胎児期の発達
第 5 回	乳児期の発達：運動・知覚
第 6 回	乳児期の発達：自己概念の発達と愛着形成
第 7 回	幼児期の発達：運動・認知・自我の発達
第 8 回	幼児期の発達：言語・心の理解・社会性
第 9 回	児童期前期の発達：知能・思考と推論
第 10 回	児童期後期の発達：自己意識・道徳観・社会性
第 11 回	青年期以降の発達：青年・成人の発達と高齢者の心理
第 12 回	自己・パーソナリティ・情動の発達
第 13 回	文化と発達／家族と発達
第 14 回	発達の多様性と発達障害の理解
第 15 回	発達心理学の現代的問題と発達支援
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・発達心理学の基礎を習得し、子どもの発達についての理解を深める。
- ・子どもの学びの過程や子どもの発達に関わる環境について理解する。
- ・発達段階ごとの特徴や発達課題に関する知識を習得し、発達を支える役割を理解する。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、意見やコメントを書くなどのワークや、内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業で学ぶ単元についてテキストに目を通して予習すること。授業で提示されたキーワードについて調べておくこと。

授業後には、授業中に指定された重要語句について復習し、日常生活の中で生じる出来事と関連付けて覚えられるようにすること。参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、定期試験（60%）によって行う。

授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況、授業への取り組み姿勢なども考慮する。

テキスト

- ・教科書名：基礎から学ぶ発達心理学
- ・著者名：佐伯素子・目良秋子・眞栄城和美・齊藤千鶴・三木陽子
- ・出版社名：大学図書出版
- ・出版年（ISBN）：2020年（978-4-909655-34-9）